

令和5年5月28日

作成：風早北部地域ふるさと協議会

防犯防災部

第1回防災活動に関する意見交換会・議事録

- ◆ 開催日時：令和5年5月27日(土) 午前10時00分～午前11時45分
- ◆ 会 場：沼南近隣センター2階 学習室1・2
- ◆ 出席団体：五條谷区・大井区・井堀内町会③・追花町会③・柏東パークホームズ管理組合・中郷町会・中の橋町会・緑台町会②・舟戸町会②・沼南エリカマンション②・塚崎区・塚崎二丁目自治会・塚崎三丁目自治会②・大津ヶ丘一丁目町会③・大津ヶ丘二丁目町会・大津ヶ丘四丁目町会②・サンパワー区管理組合・大津ヶ丘第一住宅管理組合・同第三住宅管理組合・同第五住宅管理組合・グランシティ大津ヶ丘団地管理組合②・塚崎パークヴィラ自治会②・リバティール柏自治会・手賀の杜自治会②・大津ヶ丘中学校②・大津ヶ丘第一小学校以上27団体／41名…○数字は2名以上参加者数
オブザーバー参加：柏市市民活動支援課・同防災安全課②・柏市沼南近隣センター、計4名

1. 防犯防災部長冒頭あいさつ（会議配付資料※を参照）※当会HPに掲載
2. 会議出席者自己紹介
3. 協議内容
 - (1) 防犯防災部からの報告事項（配付資料 P1～4、P5 以降の関連頁も参照）事務局からの報告の骨子は以下の通り
 - 本会議の経緯と目的（今期の目標）

2013(平成26)年8月中旬に第1回目の防災会合を開催し、その後当地域内の防災活動や防災訓練の実情を把握するため、アンケートを実施。結果回答のあった団体の三分の一にから四分の一が防災訓練を実施していたが、その多くは集合住宅の団体が消防法の規定により実施する「消防訓練（火災予防訓練）」であった。これを「防災訓練」と称して実施されていたが、私たちが理想とする防災訓練（住民安否確認や避難所の学校等への移動訓練）が行われていた団体はほとんど

なかった。その反省に立ち、以降毎月の会議（意見交換会）を通じ、翌27年秋には当地域の避難所学校への避難訓練を含めた地域一斉防災訓練が実現した。残念ながらこの3年間、コロナ感染症拡大で、訓練実施の環境が事実上ゼロにリセットされたが、ようやく感染症への取り扱いも若干緩和され、引き続き感染症対策を講じつつ、昨年度一か所のみ実施（会場は風早中学校）に留まった避難移動訓練を当地域内の各学校等の避難所を対象に地域内住民参加型で再開したい。

● 当地域の現状・課題・対応策

① 地域内の指定された住民避難場所スペースが圧倒的に不足している現状にある。配付資料 P5 及び P6 を比較しても、その差（不足の程度）は明確である。本数値が5年以上前の内容で、当地域のその後の宅地開発増加による人口増（避難対象者数の増加）と感染症対策で避難所収容者数減となっているため、更に避難スペースが不足、かつ柏市として抜本的な改善策がほとんど講じられていないことも相俟って、本課題は長年未解決状態が続いている。→柏市は昨年度までに各地域団体集会所施設を住民避難スペースに活用できるよう、そうした場所への簡単な飲食備蓄品の提供を希望団体宛てに実施したが、集会所を所有する団体数が限定的な当地域では、ほぼその有効性を感じ得ないため、施策自体の評価は低いと感じている。本課題に柏市からは必ずしも前向きと評価できる応答はないが、当地域住民団体としては「マイカー避難＋マイテント避難の推進」を訴えており、学校関係者からも非公式ながら本件に賛同の声もあることでは、現時点ではこれが最も実現可能な手段と考える。

② 総合病院が本地域に所在していないことで、災害時にこうした医療機関に招集がかかる医師・看護師が最悪この地域から居なくなる、手賀大橋が緊急車両優先通行によって我孫子市側総合病院にも向かえないため、怪我をしても平時に助かる命が守れない状況に陥ることになる。こうした状況を市行政が市民に案内していないことも問題の根っこが大きいと危惧する。

この点につき柏市危機管理部防災安全課からは、「当地域内のセブンパークアリオ柏を対象にした緊急医療施設の設置を優先的

に検討中」との現時点の回答はあるが、該当地の複数の関係者間での課題が多く、即座に実現とまではいかない感触である。当会防犯防災部及び傘下の一部地域住民からは、本件は実現まで相当の時間を要する、あるいは最終的に実現は難しいとの見解もある。→地域住民としては、大規模災害時に怪我をしない取組みとして具体的施策（←当会からの市には具体的内容を提示済み）に力を傾注すべきであり、上記の緊急医療施設実現の協議と並行して、市民が怪我をしない本テーマを前に進めることが大切と考える。

- ③ 当地域内に防災活動を平時から行える拠点（ふるさと会館、或いは各団体独自の集会施設）を有する団体が極めて限定的である。新たなふるさと会館設置は、各団体役員が一年で交代する組織が圧倒的である中ではハードルが高いし、市の関連補助金制度も有効性の面ではほぼ破綻状態にあるものと感じている。→当会防犯防災部やその活動拠点である当地（沼南近隣センター）の一層有効な活用を通じて、各団体の活動レベルの向上を望みたい。

- 今年度の当会防犯防災部事業活動の案内

- ① 毎月の防災活動に関する意見交換会の実施→配付資料 P10-11 掲載の内容に沿って実施
秋季の一斉防災訓練の実現→柏市危機管理部防災安全課から、今年9月30日土曜日に市内全域での防災訓練を予定。詳細内容は今後市民向けに開示していく。
- ② 市長への要望書提出と市の担当部局との協議の実施→一昨年度、昨年度と二年連続で実現した担当部長との会見・協議を今年度も実現を目指したい（出来れば市長同席の実現も改めて求めていきたい）
- ③ 女性防災活動サークル「風北(かざきた)ジョイナス」の設立と現在の構成者、活動に関する案内→ジョイナス座長から説明し、メンバー募集についても案内した（会議直後に女性1名が新たにメンバーとして参加されました）
- ④ 当部が毎月4部発信する防犯、防災関係の住民向けニュースの住民提供の手段は、(1)原則当会ホームページに掲載、(2)希望団体には白黒印刷で住民数の印刷物を提供（回覧部数の提供は感染症

予防のため行いません)、(3)各団体の掲示板への掲示用のカラー印刷版を希望する団体に希望数を提供(雨ざらし掲示板はラミネート加工で対応)のとおり。(2)・(3)は個別の依頼を毎回の本会議後で適宜承りますので、遠慮なく申し出ください。

- その他の事項・次回の本会議と今後の日程及び連絡方法の確認
 - ✓ 市内で振り込め詐欺が収まらない中、当地域内でも大きな被害が発生した。また警察官を含む4人が殺される痛ましい事件が起きた中、物騒な世の中が継続している現状から、本会合のテーマが防災に特化しがちではあるが、「防犯」にも目を向けた活動にも個別には傾注していきたい。
 - ✓ 第2回防災活動に関する意見交換会は再来月(7月22日)を予定し、その開催案内は6月24日以降に発信予定。
 - ✓ 来月24日は本会議でなく、一般住民も参加対象にした「防災講習会(災害発生から避難所までの行動を学ぶ)」を予定→会議配付資料(薄緑色のチラシを参照:明日28日以降に当会ホームページにも掲載)のとおり、受講希望者は必ず、メールまたはチラシ掲載の受講申込小片にて6月17日までに応募願います。来場時の自家用車使用の有無(駐車場確保のため)も併せて連絡を。加えて、市内全ふるさと協議会を通じ、市内全ての住民にも受講案内を6月上旬までに実施済み。
 - ✓ 今期の当部と各地域団体役員の皆さんとの連絡手段につき、配付資料中の調査票(水色紙面印刷物)を必ずご提出ください
 - ✓ 今期は、本会議欠席の団体宛てに後日資料をお配りするやり方を取り止めます。資料のお渡しだけでは地域防災活動の推進には繋がりにくいとの判断からの措置とご理解願います。欠席された会議資料は、その後の会議に参加された際にまとめてお渡しします。要するに年間を通じて会議に参加されない団体には、紙面の提供は原則しないことに情報提供のやり方を変更させていただきます。なお、会議配付資料データは、毎回の会議後の適宜のタイミングで当会ホームページ(下記)上にて閲覧が可能ですので申し添えます。

👉当会ホームページはこちらから：<https://kazakita.org>

(2) 風早北部地区災害対策本部の説明・自主避難所の機能の説明

会議配付資料の内容に沿って、当地域の指定避難所のひとつである沼南近隣センターの災害対策本部の体制、機能などを紹介、風水害発生時の自主避難所の開設について案内された。

説明者の沼南近隣センター所長から、各団体での防災活動の場所として沼南近隣センターの有効活用が促された。

当会会長から補足として、自主避難所開設は市のホームページやメールマガジンでの通知のみである（防災行政無線での案内は現状では行われていない）ことから、自主避難所の開設を認識する住民が僅かに留まっていた（塚崎区だけでも約200名中5名：僅か2.5%）ことは問題である。メールマガジンはスマートフォンや 아이폰などでない端末（ガラ携）でも受信可能であり、メールマガジンの受信利用登録を各地域でも住民には是非奨めて欲しい、との発言があった。

以 上